

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサークル知手（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 17日		2026年 1月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	2025年 12月 22日		2026年 1月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	理学療法士や作業療法士などの専門職視点を取り入れた、発達段階に応じた療育プログラムの提供。	遊びの中に身体機能向上や感覚統合の要素を取り入れ、子どもが楽しみながら「できた」を感じられるプログラムを実施している。	5領域（健康・生活・運動・感覚・認知・行動・言語・コミュニケーション・人間関係・社会性）を網羅した支援計画の策定と、可視化された評価を取り入れる。
2	基本的な生活習慣（着替え、トイレ、食事）の自立に向けたきめ細やかな支援。	スモールステップでの目標設定を行い、絵カードなどの視覚支援を用いて、子どもが自発的に行動できる環境を整えている。	家庭とも連携し、事業所でできたことを家庭でも実践できるよう、保護者への具体的なアドバイスや情報提供（ペアレントトレーニング的視点）を強化する。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常時・緊急時対応のシミュレーションと周知。	マニュアルは整備されているが、保護者への周知や実践的な訓練のバリエーションが不足している可能性がある。	避難訓練のシナリオを多様化（水害・不審者対応等）させ、訓練の様子や安全対策の取り組みをブログや会報で保護者へ積極的に発信する。
2			
3			